

ディビジョン番号	17
ディビジョン名	資源・エネルギー・地球化学・核化学・放射化学

大項目	2. エネルギー
中項目	2-1. エネルギー総論
小項目	2-1-4. 日本のエネルギー消費

概要（200字以内）
<p>日本のエネルギー消費は1980年代半ば以降は民生・運輸を中心に増加してきた。今後、温室効果ガスの削減目標達成のためにも、省エネルギーと非化石エネルギーの積極的な導入が必要である。</p>
現状と最前線
<p>日本のエネルギー消費は第1次石油危機（1973年）頃までは産業部門を中心に大きく増加してきたが、1980年代半ば以降は民生・運輸を中心に増加した。現在（2002年度）では一人当たり年間石油換算でドラム缶で約16本ものエネルギーを使用していることになる。</p> <p>1997年12月に京都で開催された第3回気候変動枠組条約締約国会議（COP3）で、日本は温室効果ガスの排出量を2008年から12年までの期間中に、1990年の排出量より6%削減することを約束しました。温室効果ガスの削減目標達成のためにも、抜本的な省エネルギーと非化石エネルギー（原子力・新エネルギーなど）の導入が必要とされている。</p> <p>このための基礎的研究を推進する必要があるが、その取り組みは進んでいない。特に、大学ではこうした部分の文理融合型研究を推進する必要がある。</p>

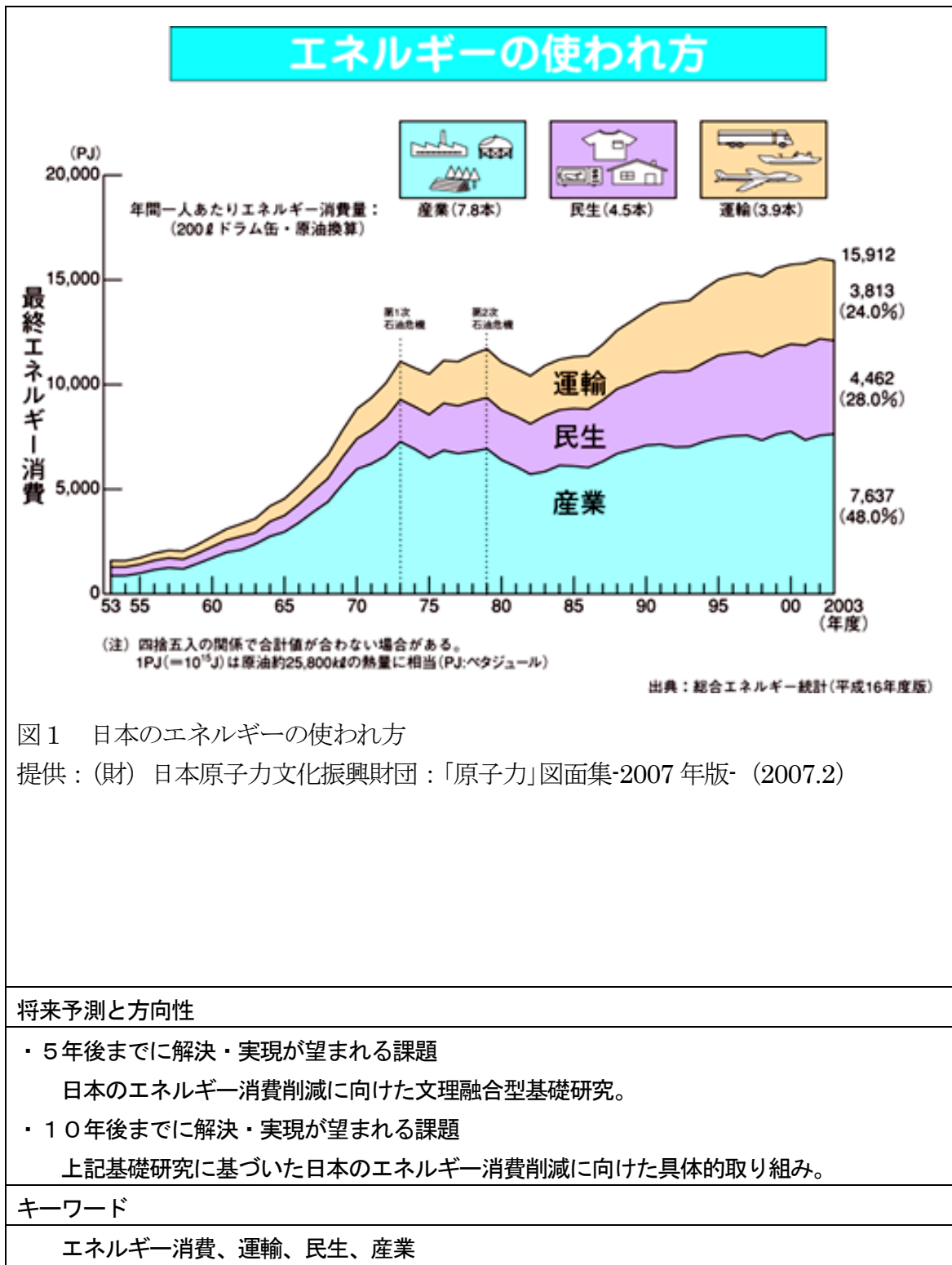


図1 日本のエネルギーの使われ方

提供：(財) 日本原子力文化振興財団：「原子力」図面集-2007年版- (2007.2)

将来予測と方向性

- ・ 5年後までに解決・実現が望まれる課題
日本のエネルギー消費削減に向けた文理融合型基礎研究。
- ・ 10年後までに解決・実現が望まれる課題
上記基礎研究に基づいた日本のエネルギー消費削減に向けた具体的取り組み。

キーワード

エネルギー消費、運輸、民生、産業

(執筆者：矢作美紀子)